



病棟薬剤師の人数が多いことは、当院の特長の一つです。患者さんと直接コミュニケーションを取りながら薬の効果を確認しています。

博愛記念病院 月刊広報誌

2025.6
FREE PAPER

入院を機に必要な薬を見直します

1



2



3



4



複 数の疾患に対して薬剤処方を重ねているうちに薬の種類が多くなり、副作用や飲み合わせの悪さにより患者さんの体に負担がかかっている状態を、多剤内服(ポリファーマシー)といいます。さまざまな研究で、6種類以上の内服は薬物相互作用の頻度が高くなることがわかっており、ポリファーマシーは有害事象の増加や服薬間違いなどにつながるため、見過ごすことはできません。

HMWでは「足し算の処方」から「引き算の処方」へと考え方をシフトし、6種類以上の服薬を多剤内服として定め、積極的に服薬数を減らすよう取り組んでいます。

患者さんが入院するタイミングは、薬の「仕分け作業」の絶好のチャ

ンス。入院中は薬剤の減量や中止による患者さんへの影響を常に観察でき、より安全に薬剤の調整が行えるためです。病棟薬剤師が服用中の薬やアレルギー歴、服薬状況などを確認し、医師をはじめとする他職種と相談しながら持参薬の中止や減量、代替薬の提案を行います。

ポリファーマシーが起こるのは、自分が処方した薬にしか責任を持たず、患者さんが服薬しているすべての薬に責任を持つとしない医師の問題が大きいのといえるでしょう。HMWの病院では、入院した患者さんの主治医が、飲んでいる薬のすべてに責任を持つことを当たり前に行っています。

Staff Comment



薬剤部 課長
梅井 康宏 Umei Yasuhiro

当院では医療法の配置基準を上回る薬剤師が配置されており、「入院を機に必要な薬を見直す」体制を整えています。診療科が増えるほど複雑になる処方薬を、薬剤師主導で整理・最適化。服薬過誤や相互作用、医療費増加を防ぐため、医師をはじめとした多職種と連携し、常に最適な薬剤を提案しています。副作用発現や効果などについて、患者さんと直接話すことで信頼関係を築き、体調変化の早期把握にもつなげています。



多職種間での連携も欠かさず行っています。



HAKUAI PHOTO SNAP



新しい人工呼吸器の説明会。スタッフが学びを深めます。



阿南医療センター職員と交流。地域連携もより強まりました。



5月の玄関は、季節の人形と菖蒲の生け花で爽やかに。



嗅覚・味覚低下に配慮した“おいしい食事”を目指す試食会。



JAZZを流し、喫茶店風メニューで楽しむデイ喫茶！

information:

公式SNSを開設しました！

LINEでは記事紹介などを定期配信中です。
LINE画面から電話や求人情報にダイレクト
アクセスが可能です。TikTokでは親しみや
すいコンテンツをショート動画で発信中。
右のQRから登録&フォローをお願いします！



入院の受け入れやそのほか、なんでもご相談ください！

医療法人 平成博愛会
博愛記念病院
HAKUAI MEMORIAL HOSPITAL

☎ 088-669-2166

〒770-8023 徳島県徳島市勝占町惣田9
☎ 088-669-3362 ✉ info@hakuaihp.jp

当院について
詳しくはこちら！



博愛記念病院